

「負けるもんか！」～世界に一つだけの文化祭を極めよう！～

校長 久保 英二

今年は「カンブリア爆発」（約5億年前のカンブリア紀に突然、今日見られる動物種が揃った現象）というテーマのもと、今まで一生懸命に取り組んできました。このテーマは、生物と文化を擬似的に考え、2017年の北九州高校が生物の多様性と文化の多様性、その後の生物の種類と文化の様々なフレーム（種）の出現したカンブリア紀を模しているという意味だと解釈しています。多様性と新しいフレームという意味では今年の北九州高校の文化祭については次のことがあげられます。まず、本校のお客さんは高校生だけでなく、年配の方から幼いお子様まで幅の広さが特徴です。催し物では、今までのように文化部の発表や模擬店をはじめとしたクラス別の参加や保護者によるバザー等ばかりでなく、地域の方々の作品の出品や出演、翔南会（小倉南区の官公庁等の交流会）の協力、自衛隊の展示物や太鼓による出演、連携校の九州国際大学の紹介と商品販売、近隣の専門高校との連携による商品販売等、様々な新しい取組を行います。まさに、多様性と様々なフレーム（種）を作ることができていると思います。この地区における文化祭の「カンブリア爆発」だと考えています。

校長室まで聞こえてくる吹奏楽の音、校長室前の掃除をする皆さんの話などからは、強い意欲が感じられました。

もう一点皆様にお伝えしたいことは、今年の文化祭での収益を、熊本地震の義援金として熊本城の「復興城主」となる資金にしようと生徒会が考えている点です。この義援金は、秋の本校独自のプレミアムホリデーの際に熊本に持参しようと計画しています。大切なことは、災害を忘れないことだと思います。君達と同じ世代の人々が災害に遭い必死に闘っています。完全に同じ気持ちになることは不可能ですが、痛みを分かち合うことは皆さんの責務でもあります。

今年の文化祭における他校との違いは「多様性と新しいフレーム」そして、「震災支援」の2点です。本校独自の取組を断固として行い、成功させることこそが、21世紀に求められる「実現力」を身につけていく大きなステップになると思います。また、その過程で生まれる「優しい」が「強い」そして「負けない」学校。日本でたった一つのそのような学校にしていきたいと思います。そのためにもこの「北雄祭」を皆さんの感性を研ぎ澄まして、全員で極めて行きましょう。

最後に、文化部を中心に、今まで準備をしてきた各部活動、各クラス、そして生徒会長や文化委員長を中心とした生徒会の皆さん、応援して下さったPTA、保護者の皆様、同窓会の皆様方、指導して下さった先生方、そして文化祭に係わっていただいた全ての方々へお礼を申し上げるとともに、「これからの北九州高校はどの学校とも違う個性的な学校へと進化、成長していく」ことを約束して結びの言葉と致します。